

# 住みよい町づくりに誠心誠意

益城町議会議長

中村 健二

明けましておめでとございます。

町民の皆様には健やかに新春を迎えられたことと心よりお慶び申し上げますとともに、日頃から町議会に対し温かいご理解、ご協力、そしてご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。平成25年3月、議長の要職に就任させていただき、微力ながらも16名の議員共々町政発展と住民福祉の向上に専心努力を傾けてまいりました。これからも、私たち議会といたしまして、町の将来のあるべき姿を描きながら、町民の皆様と共に取り組み、歩んでまいりたいと思っております。

昨年を振り返りますと、ソチオリンピックでの日本人選手の活躍やテニスの錦織圭選手の日本人初のファイナルステージ進出、身近なところでは九州中央道小池高山インターチェンジの供用開始といった明るいニュースがありました。

しかし一方で、西アフリカでのエボラ出血熱や国内でのデング熱の蔓延、県内でも鳥インフルエンザが発生し大きな話題となりました。また、毎年のように繰り返される風水害で広島県をはじめ多くの豪雨災害が発生しました。さらには、未だ記憶に新しい御嶽山の噴火災害や県内でも阿蘇山の噴火が心配されている、というように疫病と天災・地災の一年であったような気がします。

社会経済においても、昨年は消費税が引き上げられ、円安・株高傾向が続くといった、あまり庶民には関係のないようなところで景気の回復が進んでいるようにも思えます。

そのような中、益城町では新しく町政の舵取りとして西村町長が就任され、議会としましては、日本一住みよい町づくりを目指し、執行部共々、町政執行の両輪としてお互いに切磋琢磨していかねければと感じているところでございます。

今後も町民の皆様への付託に応えるべき議決機関として、議会や議事運営の見直し等の検討は怠りなく続ける必要があると思っております。

地方分権が進む中、国政においては、2年前に自公連立政権が誕生しましたが、今、その本質が問われています。都市部では景気回復の兆しが見られるものの、地方の町村では少子高齢化や過疎化のなかで、依然として深刻な経済・雇用情勢に悩まされ、地域の活力は停滞しており、厳しい立場に立たされているのが現状です。今後ますます増大、多様化が見込まれる社会福祉対策の充実強化を図り、活力あふれた自治

体としての機能を高めていくことは非常に難しい課題ではありますが、厳しい財政運営のなか、財政健全化に向けた取り組みを進めると共に、福祉、町おこし、産業、教育等、あらゆる部門でのバランス感覚に配慮しつつ、住みよい町づくりを進めていくことが必要であると考えております。

本年は、町議会議員の改選の年にあたります。私たち議員一人一人が町民の皆様の代表として、益城町の意思を決定する責務を担っているという基本に立ち返って、住民福祉の向上や町の活性化に向け、誠心誠意努力してまいります。今後とも、町議会に対しまして、一層のご指導とご協力を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、本年が町民の皆様にとりまして素晴らしい年であり、ますよう心からご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

